

小中連携道徳通信1号

発行者：川中 健太

今年度、江田島中学校区で、「自他ともに大切に作る児童生徒の育成～小中9年間を見通した道徳科の授業づくりと評価を通して～」を研究主題とし、小中共通の重点項目をB「人との関わりに関すること」とし、研究を進めています。授業では、「自分の考えを持つ」「対話で考えを広げる・深める」「自分を振り返る」活動を展開や終末で位置付けています。これまでの授業実践の一部を紹介します。

～授業実践の紹介～

(主題名) 相手のための親切 B(7)【親切、思いやり】

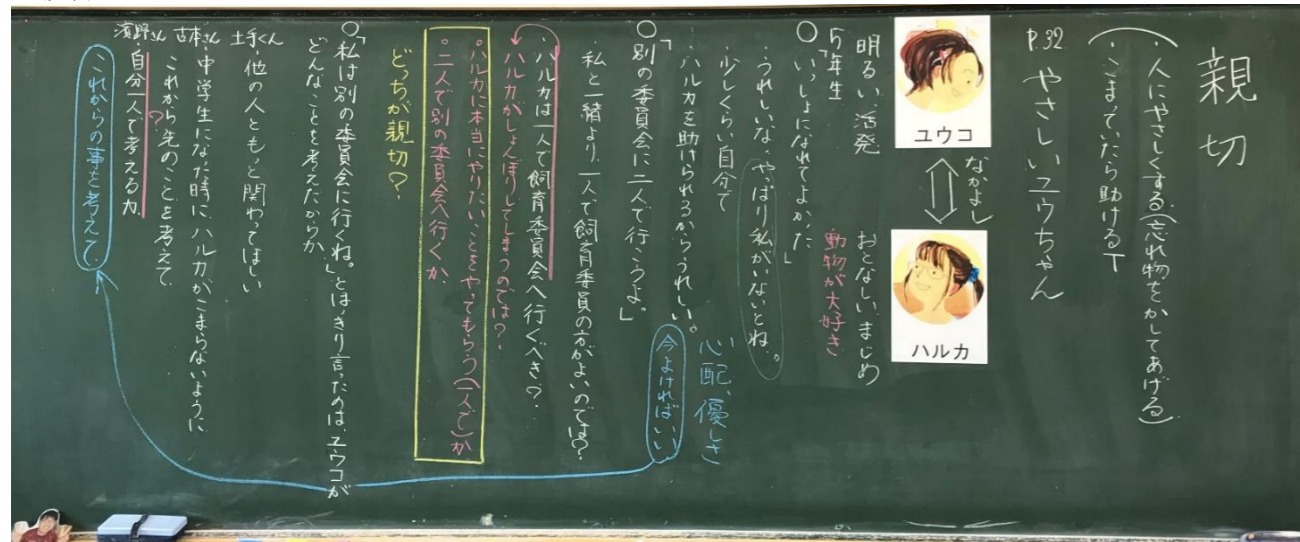
(教材名) 「やさしいユウちゃん」『小学道徳 生きる力 5』(日本文教出版)

授業者 天野 航平 教諭

<授業のポイント>

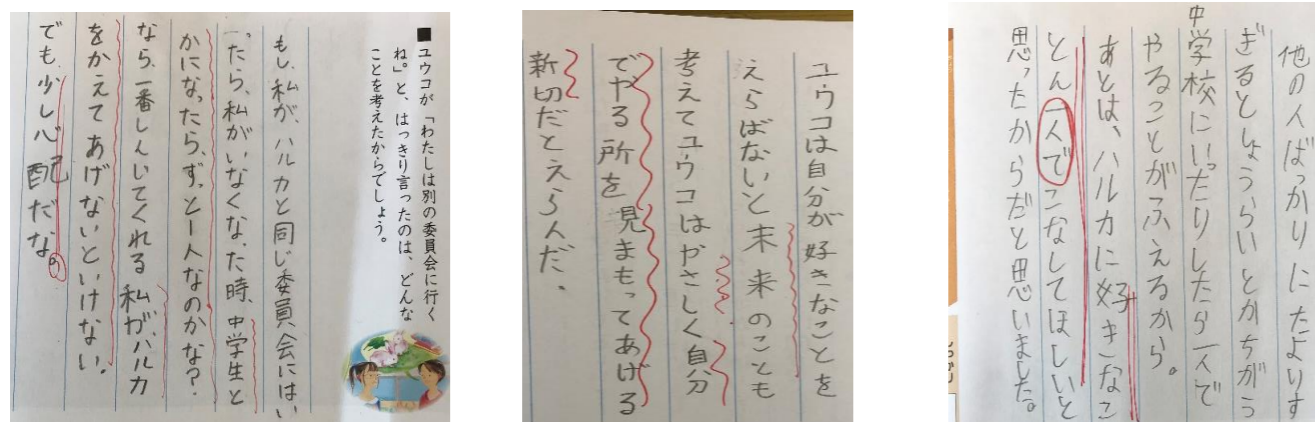
1. 主人公ユウコの心情読解レベルで終わらず、道徳的価値(親切)に対する感じ方や考え方についてまで考えさせる。
2. 目先の事だけでなく、相手のこれからを考えた親切について考えさせるために補助発問(「ユウちゃんってやさしくなくなったんだね」)を行う。

<板書>



<児童のノートから>

「相手のこれからを考えた親切」について考えを深めることができました。



～授業の記録～

| | |
|-----------|---|
| ① 日時 | 令和2年 6月 23日(火) 第(2)校時 |
| ② 学校・学年・組 | 切串小学校・5年・1組 |
| ③ 本時のねらい | 時には言いにくいこともはっきり言うユウコの考え方について考えることを通して、相手の気持ちを考えるだけでなく、本当に相手のためになることを考える親切があることに気づき、進んで親切にしようとする道徳的心情を育てる。 |
| ⑥ 学習指導過程 | <p><導入></p> <p>○みんなにとって、親切とはどうすることですか。</p> <p><展開></p> <p>◆範読①(始め～P35L2)を行う。</p> <p>○「ユウちゃんと一緒になれてよかった。もう安心だよ。」とハルカに言われたユウコはどんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そう言われてうれしい。 ・(私が)満足。 <p>◆範読②(P35L3～終わり)を行う。</p> <p>○(本当にそれでいいのかな…)としばらく考え込んだユウコは何を考えていたか。【評価①】</p> <p>[①ーア：今まで通りハルカを助けて自分も満足したいという気持ちとそれが本当にハルカのためになるのかと葛藤しているユウコの心情を自分に置き換えて考えようとしているか]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハルカは自分のやりたいことをやった方がいい。 ・私と一緒によりも自分の思いを優先すべきなのではないか。 ・ハルカに自立してほしい(自分の意志を大切に行動してほしい)。 <p>補ユウちゃんってやさしくなくなったんだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そうなのかな。 ・いや、違う。優しいよ。 <p>◎ユウコが「わたしは別の委員会に一人で行くね。」とはっきり言ったのはどんなことを考えたからか。【評価②】</p> <p>[②ーキ：あえて厳しい態度を取ったユウコが、ハルカにとって一番ためになることを考えていることを多面的に考えようとしているか]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたいことをやってほしい。 ・自立してほしい。 ・自分のやりたいことを我慢して私に合わせると、ハルカを不幸にしてしまうのではないか。 <p><終末></p> <p>○親切とは、どのようなことだと考えますか。【評価③】</p> <p>[③ーケ：これまでの自分の親切の捉えを振り返り、相手のために考える親切について考え、生活に生かそうとしているか]</p> <p>◆教師の説話(親切にして・されてよかった教師の体験)をする。</p> |
| ⑧ 成果 | 教材理解を挿絵を用いてスムーズに行い、中心発問を25分に収めることができました。また、主人公ユウコの心情読解レベルで終わらず、その思いを支える考え方や信念(道徳的価値レベル)についてまで考えさせることができました。補助発問も充実させ、考えを深めることができました。 |
| ⑨ 課題 | ユウコの葛藤場面で悩ませたかったが、「これからのことを考える」など、良い意見が出て、悩ませることが難しかった。P34のL7で分割し、「しばらく考え込んだユウコは何を考えていたか。」を発問しても良かったのではないかと。また、児童から考えを引き出したり整理したりするための思考ツールや、児童同士の対話を生む手立てについても検討していきたい。 |
| ⑩ 今後に向けて | 児童から考えを引き出したり整理したりするための思考ツールや、児童同士の対話を生む手立てについて検討していく。 |